

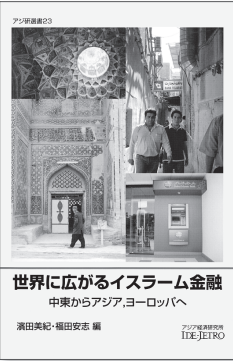
# 濱田美紀・福田安志編「世界に広がるイスラーム金融 -- 中東からアジア、ヨーロッパへ」(新刊紹介)

著者	濱田 美紀
権利	Copyrights 日本貿易振興機構(ジェトロ)アジア経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) <a href="http://www.ide.go.jp">http://www.ide.go.jp</a>
雑誌名	アジ研ワールド・トレンド
巻	184
ページ	55-55
発行年	2011-01
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2344/00004343">http://hdl.handle.net/2344/00004343</a>

濱田美紀・福田安志 編

## 「世界に広がるイスラーム金融 中東からアジア、ヨーロッパへ」

アジア研選書三三 アジア経済研究所



ム金融と通常のコンベンショナル金融の機能は基本的に同じである。しかしそのあり方は国によって異なっている。

本書の目的は、国に

本書は二〇〇八年、〇九年度に実施した「イスラーム金融のグローバル化と各国の対応」研究会の最終成果である。

日本ではイスラーム金融は、いまだになじみの薄い仕組みである。二〇〇〇年代後半から日本でもイスラーム金融に関する書籍や新聞記事などが増え（参考文献）、イスラーム金融という言葉が聞く機会が増えている。しかし、イスラーム金融は「金利がつかない」ということはわかっているが、具体的にはどのような仕組みになっているのかはよくわからないことが多い。またそれを確かめようとしても、具体的な商品が身近にあるわけでもないため、日本人のイスラーム金融の理解はなかなか進まないといえる。あるいは、イスラーム・非中東・非オイルマネーという連想で、イスラーム金融とは国を越えた巨額な資金を扱う仕組みであるという理解であるかもしれない。しかし、イスラーム金融は、そうした大きな資金の流れだけでなく、非常に身近な金融サービスであり、イスラーム金融の盛んな国では、普段の金融取引がイスラーム金融のやり方で行われている。イスラーム

より異なるイスラーム金融のあり方を一望することにある。本書のタイトルのとおり、イスラーム金融は、中東から始まり、アジア、ヨーロッパと今や世界に広がっている。本書では先進国、開発途上国、イスラーム国、非イスラーム国など政治的、経済的背景の異なる一六の国・地域をとりあげ、各国のイスラーム金融事情を解説している。

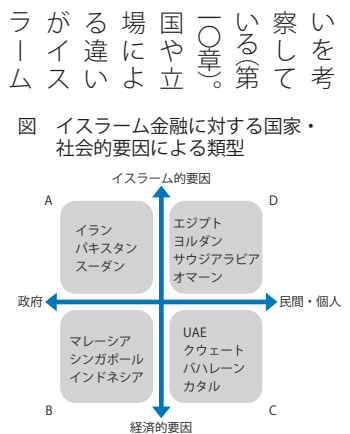
本書は二部構成をとり、第一部では各国の様子を個別にまとめている。下の図は、国の違いもしくは共通点を確認し、本書全体の見通しをよくするためのものである（序章）。これは一六カ国・地域のうちイスラーム国とムスリムの多い二三国を、イスラーム金融に対する国家的および社会的対応のベクトルによって四つのグループに分けている。おおむねこの図に本書の構成と主旨が凝縮されているといえる。

イスラーム金融のあり方について考え

るとき、実はイスラーム国であることとイスラーム金融が盛んであることは単純に結び付けられない。イスラーム国はイスラーム国であるがゆえにイスラーム金融を推進することが難しいという複雑な面をもつ。ヨルダン、サウジアラビア、エジプト（第一〜三章、図のD象限）はそのよい事例である。一方、一九八〇年代にイスラーム化を実施した国は（イラン、パキスタン）は、イスラーム金融の草分け的な事例として取り上げられるものの、現在の国際的潮流の中心からははずれている。（第四章、第五章、A象限。イスラーム金融が経済的必要因から拡大している湾岸諸国（C象限）およびマレーシア、インドネシア（B象限）については第六〜八章で、制度や各個別イスラーム金融機関の分析を行っている。

現在のイスラーム金融の発展をけん引しているのは、マレーシアに加え金融先進国であるイギリスなどの非イスラーム国である。イスラーム金融がより普遍的な金融取引に発展していくためには非イスラーム国の視点が不可欠である。今後日本がイスラーム金融を取り入れる上で参考になるのも第九章でとりあげるイギリス、シンガポール、香港、フランスの取り組みであろう。また、これら各章でまとめた国別の事情について、制度の違いが一望できるようにイスラーム金融に関する制度比較を付表としてまとめている。

第二部では、各国事情から離れ、第一部で説明された各国のイスラーム金融の在り方の違いがどのような要因によって生じるのかについて分析し、国ごとの違



いを考察している（第一〇章）。国や立場による違いがイスラーム金融の多様性を生む一方で、グローバル化により普遍的な金融取引に必要な標準化にむけて収斂する動きもある。第二章ではこうした多様化と収斂の方向性についてイスラーム銀行の流動性管理という具体的な事例をとりあげ考察している。

日本でのイスラーム金融の理解とビジネスとしての具体的な検討が足踏みする中で、世界ではイスラーム・非イスラーム国の区別なく、イスラーム金融はコンベンショナルな金融に並ぶひとつの金融手法として、その重要性が認識され確実に拡大している。本書で紹介する国々も、方法は異なるもののイスラーム金融導入に取り組んでいる。各国のイスラーム金融事情を知ることが、周回遅れの日本でのイスラーム金融への関心につながれば幸いである。

（はまだ みき／アジア経済研究所 国際経済研究グループ）

### 《参考文献》

- ① 北村歳治・吉田悦章「二〇〇八」『現代のイスラーム金融』日経BP社。
- ② 小杉泰・長岡慎介「二〇一〇」『イスラーム銀行—金融と国際経済』山川出版社。
- ③ 吉田悦章「二〇〇七」『イスラーム金融入門』東洋経済新報社。